

第12回「国際博物館の日」記念
 第170回くらしの植物苑観察会 2013年5月25日(土)

-佐倉城址の森について-

原 正利 (千葉県立中央博物館分館海の博物館 分館長)

今年の春は気温の低い日が多く、植物季節の進行も例年より遅れがちでしたが、ようやく初夏を迎え木々の緑も深くなってきました。毎年、季節を変えて佐倉城址の植物観察会を続けてきましたが、今年は森の樹木に焦点をあてて、樹形や木肌、葉などの特徴を観察したいと思います。

ご存知のように、佐倉城は鹿島川沿いの低地に張り出した半島状の台地地形を100%活用して作られた平山城(ひらやまじろ)で、三方を急斜面に囲まれています。この急斜面にはスタジイやタブノキ、シラカシなど常緑広葉樹(照葉樹)の大木が多く見られます。これらの樹木は当地域の極相林を構成する樹木で、森が生態学的に見て成熟したものであることを示しています。一方、城址内には、ケヤキやムクノキ、エノキなどの落葉広葉樹の大木も多く見られます。これらの落葉広葉樹は、種子を広範囲に散布し、明るい環境下ですばやく成長する種類で、比較的、近年の人為的攪乱後に再生、成長してきた樹木と考えられます。さらに城址内にはモッコクやツバキなど植栽された樹木の大木も見られ、城址の歴史の古さを物語っています。



洞を持つスタジイの巨木

.....
次回予告 第171回くらしの植物苑観察会 2013年6月22日(土)

「レンズで覗く植物たち」 宮田 公佳 (元国立歴史民俗博物館 准教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要